

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	地域社会との協働による遺産の管理体制の構築及び運営の支援		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域の沖縄島北部及び西表島において、地域の関係者が参画する地域部会を開催するとともに、地域別行動計画の進捗状況を検証し、必要に応じ見直し等を行う。	県	地域部会の開催、行動計画の検証等		
		行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		世界自然遺産管理運営支援業務			予算事業名		世界自然遺産管理運営支援業務	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	36, 960	35, 211		一括交付金 (ソフト)	委託	29, 436	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画の検証や見直しを行った。西表島の観光管理に係る評価委員会を設置した。					沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画の進捗管理と、新たな課題への対応について検討する。			
活動指標名	行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	2回	2回	2回	2回（4回）	100.0%	順調	沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画に位置付けられた各取組について進捗状況を把握するなどして、同計画の検証や見直し、評価した。	
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果								
設定した目標回数の地域部会を開催し、関係行政機関のみならず、地元関係者等との連絡調整、意見交換により各地域の行動計画の検証・見直しを行うことができた。各地域ごとの課題を整理し、世界自然遺産地域の適正な保全・管理に寄与した。								
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和5年度の取組改善案				反映状況				
○世界遺産委員会からの求めに応じて、4つの要請事項「適切な観光管理」、「希少種の交通事故対策」、「包括的な河川再生戦略の策定」、「緩衝地帯における森林伐採の適切な管理」に関する取組を強化する。				○「観光管理」への取組として、西表島モニタリング評価委員会を設置し、持続的観光の実現に向けた取り組みを開始した。「交通事故対策」については、個別に細事業として実施をし、より効果的な対策を検討した。「河川再生」については、関係者のヒアリングや文献調査など情報収集に取り組んだ。「森林伐採」については、関係機関との情報交換を継続して取り組むこととした。				

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	世界遺産委員会による審議結果次第で、適正な保全・管理のためにさらなる対応を求められる可能性があり、必要に応じて対応を検討する必要がある。	② 連携の強化・改善	世界遺産委員会からの求めに応じ、各地域部会のネットワークを活用し、関係機関と連携を強化して対応を検討していく。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	国、教育機関、研究機関等と連携したモニタリング調査の実施		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域モニタリング計画に基づき、国、県、研究機関等により遺産価値の維持管理に係るモニタリング調査を行う。	県	世界自然遺産登録地の保全状況の適切な把握及び評価		
		世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数（調査項目）（累計）		
		北部15項目、西表11項目	北部15項目（30項目）、西表11項目（22項目）	北部15項目（45項目）、西表11項目（33項目）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	世界自然遺産保全・適正利用推進事業			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	
一括交付金 (ソフト)	委託	368, 948	332, 960	
令和5年度活動内容				
国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行った。県では、世界自然遺産保全・適正利用推進事業等において、外来種の生息状況等を調査した。				

(単位：千円)

予算事業名	世界自然遺産保全・適正利用推進事業		
R6年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	287, 882	
令和6年度活動計画			
国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行う。県では、世界自然遺産保全・適正利用推進事業等において、外来種の生息状況等を調査する。			

活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数（調査項目）（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	15項目	15項目	18項目	北部15項目	100. 0%	順調	県では、モニタリング計画掲げる指標に沿って沖縄島北部と西表島の両地域でモニタリング調査に取り組んでおり、違法採取トラップ数や、マングース・ノネコ等の外来種生息状況などを調査した。
活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数（調査項目）（累計）		R5年度				
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	11項目	11項目	16項目	西表11項目	100. 0%		

様式 1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
地域ごとの自然環境等に照らして設定された各指標について、関係機関が連携してモニタリング調査に取り組むことで、地域ごとの定量および定性的評価を行うことができ、本県遺産地域における遺産価値の維持や強化を図ることができた。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○効果的・効率的な観光利用に係るモニタリング手法・体制を検討する。	○西表島地域については、西表島モニタリング評価委員会を設置し、有識者等からの助言を踏まえながら、継続して検討する。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	ネコの生息状況や交通事故発生状況等の指標においては、遺産価値に一定の悪影響またはその恐れが認められる、と評価された項目がある。	⑧ その他	遺産地域の保護管理に向けて効果的・効率的な手法を、有識者等からの助言を踏まえて、検討する。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組みます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域の貴重な自然環境を次世代へ継承するために、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、次世代を担う子どもたちへの普及啓発に取り組むとともに、広く県民および観光客等へPRする。	県	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		
		観光施設等でのマナー・ルールブックの配布、電子化		
		26施設以上で配布	電子化による発信	コンテンツの充実
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.shizen-isan.pref.okinawa.jp/

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		世界自然遺産普及啓発事業			予算事業名		世界自然遺産普及啓発事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	29,102	23,000		一括交付金 (ソフト)	委託	19,400	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等					遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等			

活動指標名	観光施設等でのマナー・ルールブックの配布、電子化		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		世界自然遺産の概要や遺産としての価値、貴重な自然環境を次世代へ継承するための取組や来訪する際のマナー等についてホームページで情報発信した。
	—	26施設以上で配布	電子化による発信	電子化による発信	100.0%		

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
予定どおりホームページで情報発信したほか、図画コンクールの開催や環境教育の実施、公共交通機関を活用した広告等の実施を通して県民や観光客に対する普及啓発を実施した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○図画コンクールや環境教育の開催、そのほか県等の取り組みを継続して情報発信する。	世界自然遺産の価値や保全の重要性について、遺産登録地を含む圏域の小中学生の理解醸成を図るため、図画コンクールを開催したほか、環境教育として西表で1回、やんばるで2回、自然体験学習ツアーを開催した。また、図画コンクールで受賞した作品デザインをもとに飛行機のラッピング広告を実施するとともに、ラッピング飛行機のお披露目式を開催するなど、世界自然遺産について広くPRを行った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	県内外へ広く世界自然遺産の価値とその保全の重要性等について普及啓発し、引き続き認知度の向上および理解醸成に取り組む必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	図画コンクールや環境教育の開催等、引き続き世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組を行う。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	児童生徒への啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組めます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域の貴重な自然環境を次世代へ継承するために、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、次世代を担う子どもたちへの普及啓発に取り組む。	県	地元小中学校への環境教育の実施		
		フィールド観察会の開催数（累計）		
		4回	4回（8回）	4回（12回）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.shizen-isan.pref.okinawa.jp/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		世界自然遺産普及啓発事業			予算事業名		世界自然遺産普及啓発事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	29, 102	23, 000		一括交付金 (ソフト)	委託	19, 400	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催する。					遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催する。			

活動指標名	フィールド観察会の開催数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	2回	3回	4 回（8 回）	75. 0%	概ね順調	世界自然遺産の価値や保全の重要性について、遺産登録地を含む圏域の小中学生の理解醸成を図るための環境教育として西表で1回、やんばるで2回、自然体験学習ツアー（フィールド観察会）を開催した。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
野生生物保護関連施設の見学やドローン飛行による森の観察、自然ガイドによる解説など、自然の雄大さを感じる体験や自然環境の保全に関する学びを通して、世界自然遺産の保全意識の向上を図ることができた。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○参加者を従来の登録地域から、登録地域を含む圏域へ広げる。				環境教育および図画コンクールについて、募集対象を令和4年度までの世界自然遺産登録地域から、令和5年度は遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域へ拡大して実施した。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	環境教育の実施にあたっては、児童生徒の世界自然遺産に対する関心や理解が深まるよう、プログラムの内容を工夫する必要がある。	⑧ その他	対象年齢等に応じてじかに自然体験ができるような効果的なプログラムを検討する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（伊良部県立自然公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
伊良部県立自然公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		伊良部県立自然公園区域等の見直し		
		地域の現況調査及び意向確認等	関係機関調整、地元説明等	変更計画原案作成、意見照会等
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名伊良部県立自然公園見直し事業口

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

委託

2, 197

1, 419

令和5年度活動内容

過年度の現地踏査を踏まえて、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握した。

予算事業名伊良部県立自然公園見直し事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

2, 312

令和6年度活動計画

過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握する。

活動指標名伊良部県立自然公園区域等の見直し

R5年度

実績値

R3年度

R4年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

—

地域の現況調査及び現地踏査

地域の現況調査

関係機関調整、地元説明等

70.0%

やや遅れ

過年度の現地踏査を踏まえて、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

関係機関調整、地元説明等の実施に至らなかったが、詳細な公園資質の把握に必要な環境調査を昨年度に引き続き実施したことから進捗状況をやや遅れとした。この取り組みにより、令和6年度の活動計画に円滑に繋げることができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、十分な調査、地域の意向確認を行い、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。

○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、十分な調査、地域の意向確認を行い作業を進めた。

- 14 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	自然的、社会的条件の変化を的確に捉え、見直しに反映する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、十分な調査、地域の意向確認を行い、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（沖縄戦跡国定公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
沖縄戦跡国定公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		沖縄戦跡国定公園区域等の見直し		
		情報収集、有識者ヒアリング等	地域の現況調査及び意向確認等	関係機関調整、地元説明等
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄戦跡国定公園見直し事業

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

委託

4, 045

8, 425

令和5年度活動内容

既存文献の調査の補完（現地踏査、環境調査）、地域の意向確認、基本方針の検討等を実施した。

予算事業名

沖縄戦跡国定公園見直し事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

6, 750

令和6年度活動計画

地元関係者等調整、有識者ヒアリング、見直し内容の検討・整理等を実施する。

活動指標名

沖縄戦跡国定公園区域等の見直し

R5年度

進捗状況

活動概要

実績値

R3年度

R4年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

概ね順調

既存文献の調査の補完（現地踏査、環境調査）、地域の意向確認、基本方針の検討等を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

既存文献の調査の補完（現地踏査、環境調査）、地域の意向確認、基本方針の検討等を実施したことから進捗状況を概ね順調とした。この取り組みにより、令和6年度の活動計画に円滑に繋げることができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、十分な調査、地域の意向確認を行い、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。

○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、現地踏査や環境調査を行った。また、地域の意向確認、有識者等の意見も踏まえて作業を進めた。

- 17 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	自然的、社会的条件の変化を的確に捉え、見直しに反映する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、地元関係者等調整、有識者ヒアリング、見直し内容の検討・整理等を踏まえて見直し作業を進める。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	鳥獣保護区の指定		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県に生息、飛来等する鳥獣の保護を図り、本県の生物多様性の保全に寄与することを目的に、鳥獣の保護のために必要と認められる地域について鳥獣保護区等に指定し、管理を行う。	県	鳥獣保護区の新規指定及び更新、特別保護地区の新規指定及び再指定		
		鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数(累計)		
		新規指定、更新手続きに向けた整理作業	2箇所	1箇所(3箇所)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)									
(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)									
予算事業名 —					予算事業名 —				
主な財源		実施方法		R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度			
県単等		直接実施				主な財源		実施方法	当初予算額
						県単等		直接実施	
令和5年度活動内容						令和6年度活動計画			
鳥獣保護管理員を活用して既存の鳥獣保護区の管理や保護区指定候補地の調査等を行うとともに、関係機関と意見交換を継続して取り組んだ。						既存の鳥獣保護区の管理を行うとともに、第13次鳥獣保護管理計画の保護区指定候補地の調整を進めるため、意見交換や調査等を実施する。			
活動指標名		鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数 (累計)		R5年度			進捗状況		活動概要
実績値		R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B	概ね順調		鳥獣保護区等候補地において、地元市町村及び関係者等と意見交換等に取り組んだ。また、既存の鳥獣保護区等において、鳥類の生息数調査の実施や、鳥獣保護管理員と連携しながら、鳥獣保護区の管理に取り組んだ。
		27地区	27地区	27地区	2箇所	93.1%			
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果									
令和5年度までに、鳥獣保護区の新規指定まで至っていないが、地元市町村等と意見交換等を重ねているところである。指定計画については、賛否両論あることから、意見が十分に反映されるよう、慎重に取り組みを進めている。									
(2) これまでの改善案の反映状況									
令和5年度の取組改善案					反映状況				
○市町村等関係機関意見を慎重に聞き取り、精査して、必要な対応を検討する。 ○新規指定の地区について、鳥獣保護管理員等と連携しながら最新の情報を収集する。					○鳥獣保護区等の指定にあたっては、地元市町村等にその趣旨を十分に理解してもらい、その上で賛否の判断を仰ぐこととし、賛成意見のみならず、反対意見についても精査し、必要な対応を検討しながら、推進を図った。 ○鳥獣保護管理員等と連携しながら、既存の鳥獣保護区等の管理を図りつつ、最新の情報を収集した。				

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	自然環境の変化や指定に対する県民ニーズの変化があることを念頭に、市町村等関係機関からの意見を十分に把握し、慎重に取り組んでいかなければならない。	② 連携の強化・改善	市町村等関係機関意見を慎重に聞き取り、精査して、必要な対応を検討する。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	鳥獣保護区の新規指定にあたり、鳥獣に関する最新の情報を持ち合わせる必要がある。	① 執行体制の改善	新規指定の地区について、鳥獣保護管理員等と連携しながら最新の情報を収集する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然公園施設の適正管理と利用増進
主な取組	自然公園施設の整備		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・ 自然公園施設の適正な管理及び利用増進については、既存施設の計画的かつ効率的な修繕や更新など効果的な施設整備に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
自然公園の利用増進と適正利用を図るため、自然公園施設の整備を行う。	県	自然公園の利用促進、県民の保健、休養、教化に資する休憩所や公衆トイレ等の施設整備		
		自然公園施設整備に係る取組		
		設計業務・関係機関協議	施設整備	設計業務・関係機関協議
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	自然公園施設整備事業費（補助事業）			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	
一括交付金 (ハード)	直接実施	2,967	938	
令和5年度活動内容				
沖縄戦跡国定公園の休憩所の建築工事が入札不調となったため予算を次年度に繰り越した。また、沖縄海岸国定公園の休憩所の建築設計を実施した。				
予算事業名	自然公園施設整備事業費（単独事業）			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	
県単等	直接実施			
令和5年度活動内容				
—				

(単位：千円)

予算事業名	自然公園施設整備事業費（補助事業）		
R6年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ハード)	直接実施	98,000	
令和6年度活動計画			
沖縄戦跡国定公園（大度園地）の休憩所及び公衆トイレの建築工事を実施する。			
予算事業名	自然公園施設整備事業費（単独事業）		
R6年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	直接実施	1,974	
令和6年度活動計画			
県立自然公園等の休憩所や公衆トイレ等の修繕を実施する。			

活動指標名	自然公園施設整備に係る取組		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	施設整備	設計業務・関係機関協議	施設整備	施設整備	50.0%	大幅遅れ	沖縄戦跡国定公園（大度園地）の休憩所の建築工事が入札不調となり実施できなかった。また、沖縄海岸国定公園（運天森園地）の休憩所の建築設計を実施した。

様式 1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
沖縄戦跡国定公園（大度園地）の休憩所の建築工事が入札不調となり実施できなかったこと、沖縄海岸国定公園（運天森園地）の休憩所の建築設計を実施したことから進捗状況を大幅遅れとした。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○発注時や履行中の課題等について、関係機関（土木建築部施設建築課）と連携して課題解決にあたり、円滑な執行に努める。	○関係機関（土木建築部施設建築課）と入札不調とならないよう発注方法の検討を行い、予算の繰越手続きをとるなど円滑な執行に努めた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	設計業務や施設整備の執行にあたっては、関係機関（土木建築部施設建築課）との連携が必要となる。	① 執行体制の改善	発注時や履行中の課題等について、関係機関（土木建築部施設建築課）と連携して課題解決にあたり、円滑な執行に努める。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	指定希少野生動植物種のモニタリング		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県内に生息・生育する希少な野生動植物の保護を図るため、沖縄県希少野生動植物保護条例の運用や普及啓発、希少種のモニタリング調査、検討委員会の開催等を実施する。	県	モニタリングの実施、外来種による希少種への影響の確認		
		指定希少野生動植物種のモニタリング地点数(累計)		
		30地点	30地点(60地点)	30地点(90地点)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/shiteisyu.htm

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		希少野生生物保護推進事業			予算事業名		希少野生生物保護推進事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	18,373	12,379		県単等	委託	15,400	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
モニタリング調査や普及啓発、検討委員会開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物の保護増殖事業の実施を検討し、保護増殖事業計画を策定する。					モニタリング調査や普及啓発、検討委員会の開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物の保護増殖事業を実施する。			

活動指標名		指定希少野生動植物種のモニタリング地点数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	-地点	18地点	22地点	30地点（60地点）	73.3%	やや遅れ		

希少野生生物保護推進事業において、指定希少野生動植物種のモニタリング調査を沖縄島及び石垣島で実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標値に対し、達成割合が73.3%であったことから、進捗状況を「やや遅れ」とした。その要因としては、スケジュール調整に時間を要したことにより、指定希少野生動植物種の確認に適する時期を逸し、一部の種のモニタリング調査が実施できなかったことが挙げられる。一方で、本取組により、ヤエヤマシガメなどの指定希少野生動植物種の生息・生育状況を把握できた。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○指定希少野生動植物種のモニタリング調査については、検討委員会における専門家の意見を踏まえ、あらかじめ具体的な調査計画を策定する。また、調査に必要な予算の確保に努める。 ○指定希少野生動植物種のうち現時点でナゴランなど3種について保護増殖事業実施方針を策定しているが、事業実施に向け、専門家の意見を踏まえ、保護増殖事業計画を策定する。 ○指定希少野生動植物種に関して、パンフレットの配布やホームページでの周知、イベントでの展示など情報発信に取り組む。	○翌年度のモニタリング調査計画案を検討委員会で示し、専門家からの意見が踏まえ、調査対象種や調査地点、調査時期等の調査計画を策定した。また、調査に必要な予算の確保を行った。 ○保護増殖事業計画の元となる保護増殖事業実施計画（案）について検討委員会で示し、委員から概ね了承を得た。 ○指定希少野生動植物種に関して、パンフレットの配布やホームページでの周知、イベントでの展示を行い情報発信に取り組んだ。

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	指定希少野生動植物種のモニタリング調査について、計画的に実施する必要がある。	① 執行体制の改善	指定希少野生動植物種のモニタリング調査計画については、検討委員会において調査地点数の案を示し、目標としている地点数を達成できるよう取り組む。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	保護増殖事業を実施するナゴランなど3種について、保護増殖事業計画を策定し、事業を推進する必要がある。	① 執行体制の改善	ナゴランなど3種の保護増殖事業計画について、自然環境保全審議会において承認を得るとともに、関係機関と連携して事業を推進する。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	条例の規制や指定希少野生動植物種について、県民に広く周知する必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	指定希少野生動植物種に関して、パンフレットの配布やホームページでの周知、イベントでの展示など情報発信に取り組む。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	野生鳥獣等生息状況調査		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県に生息している野生鳥獣等の生息状況(生息域、個体数等)を把握するために、新規指定候補地および既存の鳥獣保護区において調査を実施する。	県	鳥獣保護区指定のために必要な鳥獣の生息状況と生息環境把握のための調査		
		調査実施保護区における調査数(内訳)		
		5地域(新規1地域、継続4地域、累計5地域)	5地域(継続5地域)	5地域(継続5地域)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL —

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		鳥獣保護行政費			予算事業名		鳥獣保護行政費	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
						主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	7,755	10,267		県単等	直接実施	11,656	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
既存の鳥獣保護区の管理や、鳥獣保護管理員などを活用し、鳥獣保護区候補地等における鳥獣の生息状況調査等を実施した。					引き続き、鳥獣保護管理員を活用して保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査をする。			

活動指標名	調査実施保護区における調査数 (内訳)		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		鳥獣保護管理員を活用して保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査等を行うとともに、保護区指定候補地の視察した。
	4地域	5地域	5地域	5地域（継続5地域）	100.0%		

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和4年度までに、保護区指定候補地の5地区すべてで鳥獣保護管理員を配置させることができ、鳥獣生息状況調査の進捗状況は順調である。引き続き鳥獣保護区への指定に向けた関係機関等の調整を進めるとともに、必要に応じて、鳥獣生息状況調査等の実施により、鳥獣の実態把握に務めることとする。							

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
鳥獣保護区等の新規指定や更新にあたり、鳥獣の生息状況に関する最新の情報収集に努める必要がある。 既存の鳥獣保護区等を適正に管理するため、鳥獣保護管理員等と連携し継続的に鳥獣の生息状況に関する調査を実施する必要がある。	保護区指定候補地等については、鳥獣保護管理員による調査や委託業務により鳥獣生息状況等の調査を実施し、最新の生息状況に関する情報収集に努めた。 既存の鳥獣保護区においては、鳥獣保護管理員等の取り組みにより、適正に管理を図った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	現在、鳥獣保護区等の新規指定に取り組んでいる自治体は少なく、本県でも平成25年度以降、新規指定は行っていない。鳥獣保護区等の指定等にあたり、最新の生息状況について情報収集する必要がある。	② 連携の強化・改善	鳥獣保護区等の新規指定にあたり、最新の生息状況に関する情報収集に努める。 既存の鳥獣保護区を適正管理するため、鳥獣保護管理員等と連携し継続的に鳥獣の生息状況調査を実施する必要がある。
⑤ 県民ニーズの変化（外部環境の変化）	鳥獣保護区の指定にあたり、第13次鳥獣保護管理事業計画に基づき取り組んでいくこととしているが、自然環境や指定に対する県民のニーズに変化があることを念頭に、慎重に取り組んでいく必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	鳥獣生息調査等の結果をホームページで公開することで、多様な鳥獣が生息していること等を発信していく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	レッドデータおきなわの改訂		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
平成28、29年度発刊の第3版レッドデータブックについて、令和7年度に動物版、令和8年度に植物版の発刊を目指し、令和4年度から8年度の5年間で、文献調査や現地調査の実施、各種委員会の開催により、改訂作業を進める。	県	改訂作業（文献調査・現地調査、各種委員会の開催）の実施		
		現地調査の実施数（累計）		
		1回	1回（2回）	1回（3回）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.okinawa-ikimono.com/reddata/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄県版レッドデータブック改訂業務

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

委託

9,523

12,971

令和5年度活動内容

引き続き編集委員会を開催し、編集方針を策定した。また、各分科会による文献調査や現地調査等の改訂作業を行った。

予算事業名

沖縄県版レッドデータブック改訂業務

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

13,770

令和6年度活動計画

各分科会による現地調査等を継続するとともに、執筆原稿を収集し、編集作業を進める。また、編集委員会を開催し、編集作業における情報共有等を行う。

活動指標名

現地調査の実施数（累計）

R3年度

R4年度

実績値

—

1回

R5年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

19回

1回（2回）

100.0%

進捗状況

順調

活動概要

掲載種の評価作業及び執筆等の作成実務を担当する各生物分類群の分科会において、現地調査等を合計19回実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

5カ年計画の2年目において、本改訂に関する各種委員会を開催し、編集方針の策定及び希少種の生息・生育状況に係る現地調査等も数多く実施できたことから、進捗状況は順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○新たな評価対象の検討及び調査にかかる執行体制の強化や、費用増に対応する予算確保に努める。

新たな評価対象分類群を含む分科会において、委員を増員したほか、新たな評価対象に関しての方針や手法等を検討するため、保全が必要な生息地等ワーキンググループ会議を開催した。その結果、掲載種等の増加が見込まれている。

- 32 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	開発行為や外来種の侵入等により、新たに追加した評価対象分類群を含む、希少種への影響が考えられる。	⑥ 変化に対応した取組の改善	新たに追加した評価対象分類群を含む、生物の生息・生育状況の変化を把握するため、文献調査や現地調査を実施し、最新の情報収集に努める必要がある。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	沖縄島北部における希少種の回復実態調査の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
沖縄島北部におけるマングース対策等の効果による希少種の回復実態を把握するため、ヤンバルクイナ等希少種の分布状況調査を実施する。	県	マングース対策の一環として、ヤンバルクイナやノグチゲラ等の分布状況調査の実施		
		希少種回復実態調査の実施種数（内訳）		
		6種（継続6種）	6種（継続6種）	6種（継続6種）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

マングース対策事業

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

138, 279

138, 124

令和5年度活動内容

やんばる地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の回復実態を把握するため、定点観察、自動撮影カメラ等により、生息状況調査を行った。

予算事業名

マングース対策事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

132, 211

令和6年度活動計画

やんばる地域において、定点観察、自動撮影カメラ等により、その地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の生息状況調査を行う。

活動指標名

希少種回復実態調査の実施種数
(内訳)

R5年度

R3年度

R4年度

実績値(A)

目標値(B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

9種

12種

12種

6種（継続6種）

100.0%

順調

希少な鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類の分布状況調査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値6種に対して実績値12種であり、目標を達成したことから取組は順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○限られた予算の範囲で調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的に調査を実施していく。

○検討委員会等において専門家の意見を取り入れながら、調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的な調査を実施した。

- 35 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	希少種の回復実態を把握するためには、長期間継続してモニタリングを実施する必要がある。	① 執行体制の改善	限られた予算の範囲で調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的に調査を実施していく。
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	世界自然遺産の登録により、今後も遺産価値の維持・向上が重要であり、より一層、マングース等外来種対策に取り組む必要がある。		

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少生物種のロードキルの防止
主な取組	イリオモテヤマネコ等の交通事故の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・アンダーパスの設置や側溝改良、ゼブラ舗装等によるイリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等の希少生物種のロードキルを防止するとともに、橋梁など道路構造の改良についての検討に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
希少生物種であるイリオモテヤマネコ等の交通事故を防止するため、イリオモテヤマネコが道路上を横断せずに移動できるアンダーパス設置の検討や、ドライバーへの普及啓発等に取り組む。	県	交通事故防止対策の取組の推進		
		モニタリング、検討会の開催、工法・候補地の検討（アンダーパスの設置）		
		モニタリング及び工事施工場所の検討	実施設計	設置工事の実施
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名		イリオモテヤマネコ交通事故防止対策事業			予算事業名		イリオモテヤマネコ交通事故防止対策事業		
主な財源		実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度				
					主な財源		実施方法		当初予算額
一括交付金 (ソフト)		委託	89, 995	64, 262	一括交付金 (ソフト)		委託		51, 164
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
交通実態調査、観光客アンケート調査、ヤマネコ目撃情報収集システムの拡充、普及啓発、アンダーパス設置に向けた基本計画案の策定を行った。					交通実態調査、観光客アンケート調査、ヤマネコ目撃情報収集システムの拡充、普及啓発、アンダーパス設置に向けた基本計画案の検討を行う。				

活動指標名		モニタリング、検討会の開催、工法・候補地の検討（アンダーパスの設置）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値		R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		現在までの取組に関するモニタリングや、有識者検討委員会の開催、実地調査による工法・候補地の検討を行った。
		世界遺産登録に向けた取組の実施	実態調査、検討会等の実施	実態調査、検討会等の実施	実施設計	60. 0%	やや遅れ	

様式 1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和5年度に実施設計を行うこととしていたが、工法・候補地の検討に時間を要し、実施できなかったことから、やや遅れとした。一方、普及啓発や目撃情報収集システムの拡充などを行い、イリオモテヤマネコの交通事故件数は令和4年(暦年)の4件から令和5年は0件となり、4件減少した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討し、計画案の作成を行う。 ○沖縄島北部におけるヤンバルクイナ等の交通事故対策として、関係機関と連携し、効果的な除草手法の検討結果等を踏まえ、除草の取組やロードキル対策防止の普及啓発を実施する。	○西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討し、計画案の作成を行った。 ○沖縄島北部におけるヤンバルクイナ等の交通事故対策として、関係機関と連携し、効果的な除草手法の検討を行うとともに、ロードキル対策防止の普及啓発を実施した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討する必要がある。	⑦ 取組の時期・対象の改善	西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討し、令和5年度に作成した計画案を検証する。
⑦ その他(改善余地の検証等)	沖縄島北部におけるヤンバルクイナ等の交通事故対策として、関係機関と連携し、引き続き効果的な除草手法などを検討する必要がある。	⑦ 取組の時期・対象の改善	沖縄島北部におけるヤンバルクイナ等の交通事故対策として、関係機関と連携し、効果的な除草手法の検討結果等を踏まえ、除草の取組やロードキル対策防止の普及啓発を実施する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点対策種の防除実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
沖縄県の生物多様性を保全するため、重点対策種（フイリマングース、グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等）の捕獲等を実施する。□	県	外来種の駆除及び侵入・定着防止対策の実施		
		防除実施重点対策種数（内訳）		
		15種（新規6種、継続9種、累計15種）	15種（継続15種）	15種（継続15種）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名	外来種対策事業				予算事業名	外来種対策事業			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度				
一括交付金 (ソフト)	委託	138,279	434,753		主な財源	実施方法	当初予算額		
					一括交付金 (ソフト)	委託	425,822		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
台湾ハブ等の防除対策を実施するほか、新たな外来種の脅威等が確認された場合は、必要に応じて、対策外来種リスト等の見直しを行う。					台湾ハブ等の防除対策を実施するほか、新たな外来種の脅威等が確認された場合は、必要に応じて、対策外来種リスト等の見直しを行う。				
予算事業名	マングース対策事業				予算事業名	マングース対策事業			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度				
一括交付金 (ソフト)	委託	138,279	138,569		主な財源	実施方法	当初予算額		
					一括交付金 (ソフト)	委託	132,211		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
沖縄島北部地域からのマングース完全排除及び同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組む。併せて、希少種の回復状況の把握を行う。					沖縄島北部地域からのマングース完全排除及び同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組む。併せて、希少種の回復状況の把握を行う。				
活動指標名	防除実施重点対策種数（内訳）		R5年度			進捗状況	活動概要		
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
	9種	15種	17種	15種（継続15種）	100.0%		重点対策種17種（新規2種、継続15種）について、トラップを用いた捕獲や除草、普及啓発等の防除対策を実施した。		

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標値15種に対して実績値は17種であり、目標を達成したことから取組は順調に進捗している。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
沖縄県外来種対策行動計画において定めた防除目標の達成に向けて、同計画に基づく取組を引き続き推進していく。	各外来種の防除計画等に基づき、捕獲等を実施した。 また、有識者で構成される検討委員会及び作業部会等での意見を踏まえて、効果的な捕獲手法の検討等を行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	定着している外来種については、対策を継続しない場合は生息数及び生息範囲を拡大させるおそれがある	① 執行体制の改善	沖縄県外来種対策行動計画において定めた防除目標の達成に向けて、同計画に基づく取り組みを引き続き推進していく。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するための外来種対策がより重要となっている。		

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点予防種のモニタリング実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
沖縄県の生物多様性を保全するため、港湾や空港の周辺等においてモニタリング調査を実施し、重点予防種（ヒアリ等）の侵入・定着防止を図る。	県	重点予防種のモニタリング実施		
		重点予防種（ヒアリ）のモニタリング実施地点数（内訳）		
		8地点（継続8地点）	8地点（継続8地点）	8地点（継続8地点）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://okinawa-gairaisyuu.com/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		外来種対策事業			予算事業名		外来種対策事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	438, 829	434, 753		一括交付金 (ソフト)	委託	425, 822	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
沖縄県外来種対策行動計画等に基づき、重点予防種に指定するヒアリ等の侵入・定着を防ぐためのモニタリング等を実施した。					ヒアリ等のモニタリング等を実施するほか、新たな外来種の脅威等が確認された場合は、初期防除等を実施し、必要に応じて、リスト等の見直しを行う。			
活動指標名	重点予防種（ヒアリ）のモニタリング実施地点数（内訳）		R5年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		県内の港湾や空港の周辺等において、ヒアリ等のモニタリング調査を実施した。	
	10地点	10地点	10地点	8 地点（継続 8 地点）	100. 0%			
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果								
目標値 8 地点に対して実績値10地点であり、目標を達成したことから取組は順調に進捗している。								
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和5年度 of 取組改善案					反映状況			
○沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するための外来種対策がより重要となっている。					侵入リスクの高い港湾周辺等において、環境省や港湾管理者などの関係機関と連携してモニタリング調査を行ったほか、ヒアリ同定研修会を開催するなど、情報共有を図った。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	未定着の外来種は、常に物流等による侵入・定着のリスクがある。	② 連携の強化・改善	沖縄県外来種対策行動計画に基づき、侵入リスクの高い港湾周辺等において、環境省や港湾管理者などの関係機関と連携してモニタリング調査や情報共有を行っていく。
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するための外来種対策がより重要となっている。		

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
普及啓発イベントを実施し、動物遺棄の防止および動物愛護思想の涵養を図る。	県	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策		
		普及啓発イベントの開催数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

動物適正飼養推進事業費

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

直接実施

21, 299

25, 330

令和5年度活動内容

県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行った。

(単位：千円)

予算事業名

動物適正飼養推進事業費

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

直接実施

24, 500

令和6年度活動計画

県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行う。

活動指標名

普及啓発イベントの開催数（累計）

R5年度

進捗状況

活動概要

実績値

R3年度

R4年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

5回

5回

5回

5 回（10回）

100. 0%

順調

捨て犬・捨て猫防止キャンペーンのほか、動物愛護週間行事として動物愛護図画コンクール、動物愛護の集い等を開催している。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

計画通り動物愛護関連行事を実施することができたため順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○沖縄県動物愛護管理センター譲渡推進棟HPを整備し、SNS等を活用した情報発信を行う。
○普段から人通りの多い場所など、イベント開催場所や時期の検討、告知方法の検討等を行い、集客数を向上することで関心のない人への普及啓発を図る。

○沖縄県動物愛護管理センター譲渡推進棟HP及びをSNSを整備し、情報発信を行っている。
○イベント開催場所や時期についても引き続き検討する。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	イベント実施において、市町村や教育機関等の関係機関と連携した取組を強化する必要がある。	② 連携の強化・改善	イベント実施において、市町村や教育機関等の関係機関との連携を深め、県民により広く普及啓発を図る。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○密猟・盗採等の防止
主な取組	沖縄島北部における密猟・盗採等の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・密猟・盗採や廃棄物の投棄など人為的な影響の抑制に向けて、自然保護地域における巡回・巡視の強化に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄島北部における希少種の密猟・盗採防止対策として、森林内パトロールや警察など関係機関と連携した合同パトロール等を実施する。	県	希少種の密猟・盗採防止対策の実施		
		森林内のパトロールの実施数(累計)		
		180回	180回(360回)	180回(540回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	希少種交通事故防止・密猟対策事業				予算事業名	希少種交通事故防止・密猟対策事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	91,898	73,350		一括交付金 (ソフト)	委託	61,270
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
森林内パトロールや警察など関係機関と連携した合同パトロール、ドローンを活用した森林内パトロールの試行、林道夜間通行止め実証実験等を実施した。					森林内パトロール、警察や関係機関と連携した合同パトロール、林道の夜間通行止め実証実験を実施する。		
活動指標名	森林内のパトロールの実施数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	242回	185回	183回	180回（360回）	100.0%	順調	沖縄島北部国頭村の森林内において密猟対策パトロールを早朝・昼間・夜間の時間帯に計183回実施した。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
目標回数以上の森林内パトロールを実施し、採集トラップや車両を57件確認した。パトロールでは、人物の接触や特定はできていないものの、希少な野生動植物を記録できたことや、警察などとの合同パトロールにより22件の職務質問を行うなどして、密猟防止に係る啓発を行った。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○森林内パトロールに加え、効果的な密猟防止対策に係る取組及び体制について検討するため、林道夜間通行止め実証実験を実施する。				○林道夜間通行止め実証実験を実施し、設置したカメラにより通行車両や人物の数を集計し、効果的な密猟対策に資するためのデータ収集ができた。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	効果的な密猟防止対策に係る取組及び体制について検討する。	⑧ その他	パトロール等を継続して実施し、密猟防止の取り組みを広くアピールするとともに、効果的な地点設定を検討する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	外来種対策に係る普及啓発活動の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
多くの県民が沖縄の生物多様性の豊かさを認識し、外来種問題および対策の必要性について理解を深め、県民一丸となった取組みにつなげるための普及啓発活動を実施する。	県	普及啓発活動の実施		
		企画展示、講演会等、普及啓発活動の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

外来種対策事業

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

438, 829

434, 753

令和5年度活動内容

パネル展の開催や環境フェア、夏休みこども自由研究イベントへ出展する。

予算事業名

外来種対策事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

425, 822

令和6年度活動計画

パネル展の開催や環境フェア等へ出展する。

活動指標名

企画展示、講演会等、普及啓発活動の実施数（累計）

R3年度

R4年度

R5年度

実績値

8回

8回

14回

目標値(B)

1回（2回）

達成割合
A/B

100.0%

進捗状況

順調

活動概要

夏休みこども自由研究イベントへの出展を1回、各地域の図書館等においてパネル展の開催や展示ボックスの設置を12回、環境フェアへの出展を1回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値1回に対して実績値14回であり、目標を達成していることから、順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、外来種専用ホームページの充実など、普及啓発の取組を引き続き行っていく。

市町村や博物館学芸員等と連携しての展示物の検討や外来種専用HPを更新した。

- 53 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	多くの県民が外来種問題を認識し、外来種被害予防三原則「入れない・捨てない・拡げない」の行動を実践するための普及啓発を充実させる必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、外来種専用ホームページの充実など、普及啓発の取組を引き続き行っていく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生物多様性おきなわ戦略）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
本県の生物多様性を保全・維持し、自然環境共生型社会の実現に向け、平成25年3月に策定した生物多様性おきなわ戦略について、現在の自然環境や社会状況等を踏まえた上で、有識者からなる委員会をもとに見直し第2次生物多様性おきなわ戦略（仮称）を策定する。	県	生物多様性おきなわ戦略の改定、生物多様性の普及啓発		
		生物多様性おきなわ戦略の改定		
		生物多様性おきなわ戦略の改定作業着手	生物多様性おきなわ戦略の改定作業完了	生物多様性おきなわ戦略に基づく取組推進
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd_okinawa_senryaku.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

生物多様性地域戦略事業

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

委託

9,130

11,990

令和5年度活動内容

有識者からなる検討委員会を引き続き設置し、2回の検討会において議論し、新戦略（素案）を作成した。

予算事業名

生物多様性地域戦略事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

3,101

令和6年度活動計画

引き続き内容の検討進め新戦略（素案）のパブコメを実施し、自然環境保全審議会の審議を経て新戦略を策定する。策定後、新戦略の普及啓発を図る。

活動指標名

生物多様性おきなわ戦略の改定

R5年度

実績値

進捗状況

活動概要

有識者からなる検討委員会を引き続き設置・議論をし、新戦略（素案）を作成した。

R3年度

R4年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

実績値

—

生物多様性おきなわ戦略の改定作業着手

生物多様性おきなわ戦略の改定作業継続

生物多様性おきなわ戦略の改定作業完了

60.0%

やや遅れ

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

新戦略（素案）を作成するにあたり、有識者の意見をふまえ沖縄県の生物多様性変遷の解析だけでなく、その要因分析も行う必要が生じたため、進捗が遅れ新戦略は未策定となった。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

新戦略では、現行戦略の評価と新戦略に向けた課題を示すとともに、生物多様性国家戦略2023-2030の基本構造を参考とした状態目標と行動目標の設定を新たに行い、評価をする予定である。

反映状況

新戦略（素案）では、現行戦略の評価と新戦略に向けた課題だけではなく、沖縄県の生物多様性の変遷、及び現状と課題も示すとともに、生物多様性国家戦略2023-2030の基本構造を参考とした状態目標と行動目標の設定を新たに行い、評価する仕組みとしている。

- 56 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	有識者からなる検討委員会において、新戦略では沖縄県の生物多様性変遷を見える化すること、また、ステークホルダーへの理解を深めるために、新戦略の発信方法を対象別に変えること等の意見があった。	⑧ その他	新戦略（素案）では、沖縄県の生物多様性の変遷を地図上の重ね合わせ等見える化を図るとともに、新戦略の発信方法については、対象別に新戦略の概要版を策定予定である。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生きものいっせい調査）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
県教育庁と連携し、県内小学生を対象とした「生きものいっせい調査」や一般県民を対象とした「フォトコンテスト」を実施し生物多様性の普及啓発活動を図る。	県	生物多様性の普及啓発		
		生きものいっせい調査の実施数（累計）		
		1回	1回（2回）	1回（3回）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.okinawa-ikimono.com/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		生物多様性地域戦略事業			予算事業名		生物多様性地域戦略事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	4,430	4,609		県単等	委託	4,503	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きもののいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施した。					県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きもののいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施する。			
活動指標名	生きもののいっせい調査の実施数 (累計)		R5年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1回	1回	1回	1回(2回)	100.0%	順調	生物多様性の普及啓発と県内の生物多様性の状況把握の一助となるよう、県内小学校の4～6学年全員を対象に「生きもののいっせい調査」、一般を対象に「フォトコンテスト」を実施した。	
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果								
計画通り「生きもののいっせい調査」及び「フォトコンテスト」を実施したことから順調とした。								
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和5年度の取組改善案				反映状況				
○「生きもののいっせい調査」調査票について各教育委員会でとりまとめて提出してもらっているが、郵送による提出などを検討し、教員の負担軽減を図る。				○離島の場合は調査票の郵送による提出に対応し、教員の負担軽減を図った。				

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	これまで継続してきた調査結果データの適切な活用方法が課題である。	⑧ その他	専門家へのヒアリングを行い、調査結果データの活用を検討する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国立沖縄自然史博物館誘致に係るイベント開催		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	認知度の向上及び機運醸成を図るためのシンポジウム・企画展等周知啓発イベントの開催		
		シンポジウム等周知啓発イベントの開催数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業			予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	27,268	28,467		県単等	委託	35,842	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
東京でのシンポジウム、県内でのシンポジウム、県内5圏域での企画展を実施した。					県内シンポジウム、県内5圏域での企画展や周知イベントを行う。			

活動指標名	シンポジウム等周知啓発イベントの開催数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		県内シンポジウム（名護市）を10月14日に、東京シンポジウムを令和6年3月22日に実施した。また、県内5圏域（7箇所）で企画展を実施した。
	2回	7回	9回	5回（10回）	100.0%	順調	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和5年度は、シンポジウム（2回）、企画展（7回）を合計9回開催し、目標値を上回った。県内シンポジウムに約330名、東京シンポジウムに約380名（オンライン含む）の参加があるなど、機運醸成が図られた。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○県主催のシンポジウム等の対象を県外にも広げて開催するなど、継続して取り組み、認知度の向上および機運醸成を図る。	○県内シンポジウムや企画展などの継続した取組に加え、東京シンポジウムを開催することで、認知度の向上及び機運醸成を図った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	引き続き、普及啓発に取り組み、更なる認知度の向上及び機運醸成を図っていく必要がある。	② 連携の強化・改善	大型商業施設などでのイベントを行うなど、普及啓発方法を工夫しながら、更なる認知度の向上及び機運醸成を図る。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国への要請		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	国立沖縄自然史博物館の設立に係る国への要請		
		国への要請回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

国立自然史博物館誘致推進事業

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

県単等

委託

27, 268

30, 571

令和5年度活動内容

骨太の方針への要請、沖縄及び北方対策担当大臣への要望など、国への要請を合計5回行った。

予算事業名

国立自然史博物館誘致推進事業

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

35, 842

令和6年度活動計画

あらゆる機会を捉えて国へ要請を行う。

活動指標名

国への要請回数（累計）

R5年度

進捗状況

活動概要

実績値

R3年度

R4年度

実績値(A)

目標値(B)

達成割合
A/B

0回

1回

5回

1回（2回）

100.0%

順調

骨太の方針への要請、沖縄及び北方対策担当大臣への要望など、国への要請を合計5回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和5年度は国への要請を5回行い、目標を上回った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和5年度の取組改善案

反映状況

○国等に対し、引き続きあらゆる機会をとらえて働きかけを行う。

○あらゆる機会を捉え、5回の要請を行った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	・ 誘致実現に向けて、国等への働きかけや意見交換等を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	・ 誘致実現に向けて、国等への働きかけや意見交換等を行う必要がある。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	経済団体等への説明会・講演会の開催		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	認知度の向上及び機運醸成を図るための経済団体等に対する説明会・講演会の開催		
		説明会等の開催数（累計）		
		1回	1回（2回）	1回（3回）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業			予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	27, 268	30, 571		県単等	委託	35, 842	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
市町村議会や沖縄県議会国立自然史博物館設置促進議員連盟に説明を行った。					市町村や経済団体等への説明会等を開催する。			

活動指標名	説明会等の開催数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		市町村議会や沖縄県議会国立自然史博物館設置促進議員連盟に説明を行った。
	—	2回	2回	1 回（2 回）	100. 0%		
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和5年度は説明会を2回開催し、目標値を上回った。県議会などの関係者において、理解が深まり、機運醸成が図られた。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○有識者と連携して関係団体等への説明会等を行い、認知度の向上および機運醸成を図る。				学識経験者で構成される一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会と連携し、議員連盟へ説明会を行った。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	引き続き、認知度の向上及び機運醸成を図り、賛同者（団体等）を広げていく必要がある。	② 連携の強化・改善	有識者と連携して関係団体等への説明会等を行い、認知度の向上および機運醸成を図る。